

## 2022年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2022年6月3日（金）13時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：15名 オブザーバー：24名 計39名（事務局：4名）

○協 議 （1）2021年度事業報告（案）・収支決算（案）について  
（監査報告）  
（2）秋田市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する意見について

○報 告 （1）秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業等の進捗  
①あきた芸術劇場「ミルハス」について  
②秋田市中心市街地循環バス「ぐるる」の運行ルート等の変更について  
（2）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗  
①2022 千秋蓮まつりについて  
②アートなまち歩きについて  
③秋田駅前歩道占有にぎわい創出事業について

○情報提供 （1）東北経済産業局からの事業紹介  
（2）東北地方整備局からの事業紹介

（発言内容）

【三浦会長の開会挨拶】

- ・ あきた芸術劇場ミルハスについて、6月5日に開館する。9月23日のグランドオープン以降、大ホールと中ホールの年内の予約は埋まっており、今後、ミルハスの来館者で中心市街地が賑わうことが期待される。
- ・ 中心市街地循環バス「ぐるる」の運行ルートが見直され、6月5日以降は、ミルハス前に新たな停留所が設置される予定となっている。今年3月には、路線バスに交通系 IC 決済の「アキカ」が導入されており、「ぐるる」や路線バスを活用した来街者の増加や回遊拡大に繋がることを期待している。
- ・ 後ほど関係機関から詳細についてご報告いただくが、それぞれの取組が中心市街地の活性化に相乗効果をもたらすことを望んでいる。
- ・ エリアなかいちが、7月に開館10周年を迎える。それに合わせ、7月3日に開催する広小路バザールは、エリアなかいちを会場に実施される「ジャパンライブエールプロジェクト in あきた～秋田キャラバン～」や、周辺の商店街や施設と連携し、広域での集客を図る。

- ・ 昨年度の事業報告と収支決算ならびに、昨年度で期間満了となった第2期中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する意見についてご協議いただく。
- ・ 今年度中に、中心市街地の活性化に関する新たな計画が策定される予定であり、当協議会としては計画案について協議・意見するなどし、引き続き、中心市街地の活性化に向けた取組を推進していきたい。

## 【協 議】

### (1) 2021年度事業報告(案)・収支決算(案)について

事務局より、協議会および芸術文化ゾーンの活用研究会の開催など、2021年度の事業報告(案)を説明した後、収支決算(案)について説明した。

後藤監事からの監査報告後、原案通り承認された。

### (2) 秋田市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する意見について

秋田市都市整備部都市総務課の横山課長が以下のとおり説明した。

- ・ 内閣総理大臣の認定を受けた中心市街地活性化基本計画について、法令により、計画期間終了後に自己評価を行い、最終フォローアップとして内閣府へ報告することになっている。
- ・ 報告書には中心市街地活性化協議会の意見を記載することが求められていることから、本日は、報告書の内容を説明するとともに、記載する協議会のご意見について協議いただく。
- ・ 中心市街地全体に係る評価の「1. 計画期間終了時点の中心市街地の概況」について、本市では、平成29年3月に基本計画の認定を受け、「行きたい街」、「住みたい街」、「活力ある街」を目指して事業を推進することとし、官民が一体となり活性化に向けた取組を進めてきた。
- ・ 「行きたい街」では、「秋田市文化創造館整備事業」にて旧県立美術館を改修し、秋田市文化創造館として令和3年3月に開館することができた。一方で、「あきた芸術劇場整備事業」などは計画期間内での開館には至らず、また、新型コロナウイルスの感染拡大による外出機会の減少の影響もあり、歩行者などの通行量は、計画の前半の傾向とは異なり、減少傾向にある。
- ・ 「住みたい街」では、「秋田版CCRC事業」により、地域社会との連携や医療ケアなどの機能を有した集合住宅「クロッセ秋田」が令和2年10月に完成した。民間施設だけで構成するCCRCは全国初であり、高齢化社会においても安心して暮らせる居住空間の確保を図ることができた。
- ・ 「活力ある街」では、「中心市街地商業集積促進補助制度」において目標を大きく上回る利用があり、中心市街地における旺盛な出店意欲が見られ、また、秋田市文化創造館の利用件数も順調に推移し、利用の定着化が進んでいる。
- ・ 5年間の取組により、マンションの建設や地価の上昇など、中心市街地において活性化の兆しはみられるものの、設定した目標指標の達成状況を考慮すると、それは十分なものとは言えず、課題を検証した上で、今後も継続して取り組んでいく必要があるものと考えている。
- ・ 「計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか」について、計画は概ね予定どおり進捗・完了し、若干活性化したものと自己評価している。
- ・ 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見については、協議会として本計画の取組による活性化の状況についての意見を記載していただくことになって

いる。提出期限の関係で、事前に会長の承認を得て作成した意見案を内閣府に報告しているが、本日の協議会の結果、変更が生じた場合は、内閣府へ改めて報告することになっている。

- ・ 次に、市民意識の変化について、計画策定前の平成 28 年と、計画期間終了後の令和 4 年 4 月に実施したアンケート調査の結果に基づいたものであり、若干活性化したと評価いただいたものと認識している。
- ・ 「中心市街地を普段どれくらい利用しているか」という設問について、本計画策定前の平成 28 年に行ったアンケートの同じ設問と比較し、大きな変化は見受けられないが、少しだけ来街頻度が増えている。
- ・ 「今後中心市街地に住むことについて興味はあるか」という設問について、前回調査と比較し、既に現在住んでいるという方、また、何らかの理由で住んでみたいと回答した方が増加した。中心市街地の人口の社会増減数が増加傾向にあることと連動しており、また、建設予定のマンションへの期待感が影響しているのではないかと考えている。
- ・ 「中心市街地の環境で改善したほうがよいと思う点はあるか」という設問について、前回調査と比較し、幾つか選択肢を追加したこともあるが、中心市街地へのアクセスに関連した内容が増加した。一方、「空き店舗や空きビルが多く、街として寂しい」とする割合は減少している。
- ・ 目標指標ごとのフォローアップ結果について、歩行者・自転車通行量は目標値を一日あたり 35,000 人と設定していたが、最新値は 20,539 人であった。目標値を達成できなかった要因は、感染症の感染拡大による外出機会の減少や、あきた芸術劇場ミルハスが計画期間内の開館に至らなかったことが影響したものと認識している。計画の前半は増加傾向であったこと、また、ミルハスも開館するので、感染が収束することにより、通行量が増加していくことが期待される。
- ・ 芸術文化施設利用者数について、目標値は一日あたりの施設利用者数 1,530 人であったが、感染症の影響によるミルハスの工期の遅れなどがあり、最新値は 290 人となった。通行量と同様、コロナ禍の外出機会減少やイベント中止の影響を受ける指標であるが、ミルハスの開館と感染が収束することにより、各種取組の効果が発現するものと期待している。
- ・ 中心市街地における人口の社会増加数について、目標値を 5 年間の累計で 240 人の増加と設定していたが、最新値は 27 人の増加となった。全国的な人口減少の影響もあり、令和元年度まで減少傾向にあったため、令和 2 年度、3 年度で増加したものの、社会増加数は各年の累計で評価することから、目標を達成することはできなかった。直近 2 年の増加の要因としては、駅東口の学生マンションや、「クロッセ秋田」の完成などが考えられる。今後、中心市街地に建設予定である 5 棟のマンションが完成することで、更なる居住人口の増加が期待される。
- ・ 商業集積促進関連制度利用件数について、目標値を 5 年間の制度利用件数の累計 50 件に設定していたが、最新値は 181 件で目標を達成できた。空き店舗等への出店に係る費用の補助事業である中心市街地商業集積促進補助制度を中心に順調に推移したものであり、制度の周知が進み、また、中心市街地の各施設の完成を見据えた旺盛な出店意欲があったのではないかと考えている。
- ・ 市民活動等施設利用件数について、目標値を年間 20,800 件と設定していたが、感染症の感染拡大の影響を受け最新値は 17,082 件となり目標を達成することができなかった。しかし、令和 3 年 3 月に開館した秋田市文化創造館に関しては、令和 3 年度の施設利用件数が当初の想定である 524 件を大幅に上回る 1,514 件であり、利用が定着してきていると考えている。

- ・ 今後のスケジュールについて、6月末を目処に報告書を本市のホームページ上で公表し、7月頃に内閣府で全国の報告書を取りまとめ公表する予定となっている。
- ・ 次期計画の策定について、委託業者が決定したところであり、今後作業を進めていくことになる。節目節目で、案を提示し意見をいただく予定である。

続いて、事務局よりフォローアップに対する意見について以下のとおり説明した。

- ・ 秋田市より令和4年5月9日付けで、中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに対する意見聴取について依頼を受けている。意見書案について、ご審議いただきたい。

協議資料の意見書（案）を読み上げ、原案どおり承認された。

## 【報 告】

### (1) ①あきた芸術劇場「ミルハス」について

秋田市企画調整課の小杉山課長が以下のとおり報告した。

- ・ あきた芸術劇場ミルハスが6月5日に開館する。各施設の利用時間について、ホールは9時から22時、その他研修室等17室は9時から23時である。
- ・ ホール以外は6月6日から供用開始となる。大中小ホールは6月6日以降、運営の習熟を兼ねて9月22日まで試運転期間とする。
- ・ ミルハス開館以降の連携催事について、6月5日の開館日にエリアなかいちのビジョンで記念式典の生配信を行うほか、「にぎわい広場」を会場とし「ナカナカ市」が開催される。飲食や物販ブース約25店舗に出店いただき、集客を図る。
- ・ 秋田市文化創造館においても、「あきた芸術劇場ミルハスの開館日をピンホールカメラで撮影する」というワークショップを実施するほか、旧県立美術館と県民会館が開館した時の新聞記事を展示するなど歴史のあゆみを伝える展示会を行っているので是非ご覧いただきたい。その他、6月5日に文化創造館の新しいバナーを掲示するので、こちらもご覧いただきたい。

## 【意見・質問】

秋田駅前広小路商店街振興組合の田村事務局長が以下のとおり発言した。

- ・ ミルハスの駐車場について、200台を保有するとのことだが、大ホール2,000人の来場に対し、駐車場が不足し、秋田駅前の各駐車場の利用が想定される。その場合、駅前買物客に支障があるという意見があり、シャトルバスの運行や旧産業会館跡地および木内駐車場に臨時駐車場を設置するなど、対策は検討されているか。

秋田市企画調整課の小杉山課長が以下のとおり発言した。

- ・ ミルハス周辺半径500m以内で約2,000台の民間駐車場がある。来館者には公共交通機関や中心市街地循環バスをご利用いただくほか、民間駐車場に駐車しご来場いただきたいと考えている。ミルハスの駐車場については、空いている時は誰でも利用できるが、障がい者や催事関係者が利用することを前提としている。
- ・ 臨時駐車場の設置については、催事主催者と相談しながら都度検討することが考えられる。

- ・ なお、ミルハスの駐車場の満空表示を広小路とミルハス前に掲示するほか、ミルハスのホームページにも掲載する。また、公共交通の利用など駐車場対策に繋がる呼びかけをホームページ上などで行う。

仲小路振興会の藤井会長が以下のとおり発言した。

- ・ 木内が休業してから3年近く経過する。中心市街地の活性化のために、行政機関、商工会議所、当協議会が一体となって、所有者に今後の意向等を確認するような働きかけをお願いしたい。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 同感であり、県・市・民間で連携し、糸口を探しながら積極的にアプローチしていきたい。商工会議所会頭に就任当初から対応しており、中心市街地の活性化のために引き続き取り組んでいきたい。

広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 本件について、前進に向けて専門的に対応する部会の設置などをお願いしたい。
- ・ ミルハス来館者に対し、周辺駐車場の情報を更に周知するなど駐車場対策を徹底して欲しい。

秋田市企画調整課の小杉山課長が以下のとおり発言した。

- ・ ミルハス開館と同時に、ホームページを刷新し周辺駐車場の利用案内を行う。また、民間駐車場の中で、満空情報をアプリ把握できるサービスを提供している駐車場があるので、ミルハスのホームページで本サービスを周知するなど更なる対策を講じていきたい。

大町商店街振興組合・高堂理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 駐車場関連のアプリを活用したサービスについて、中心市街地全体の駐車場を対象に一体的に行うことができないか。県外客に対し有効的なサービスに成り得る。

#### (1) ②秋田市中心市街地循環バス「ぐるる」の運行ルート等の変更について

秋田市交通政策課の栗林課長が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田市中心市街地循環バス「ぐるる」について、中心市街地の回遊性を高めることで賑わいを中心市街地全体に広げることを目的に平成24年から運行している。秋田市文化創造館およびあきた芸術劇場ミルハスの開館に伴い、あきた芸術劇場を運行経路に追加するなど運行ルートを変更することで更なる賑わいの波及を図る。
- ・ 新たな運行ルートの開始はミルハス開館日の6月5日とする。1日当たりの運行便数は運行距離の延伸による時間調整に伴い、従前の21便から16便に変更する。
- ・ 運行ルートの変更部分について、「千秋公園入口→中土橋経由→ミルハス前」とし、そのあと木内前に戻る。また、ダイワロイネットホテル前の「川反入口」については、停車後の約30mの短い距離で4車線を横断する必要があったことから、安全運行の観点で停車しないこととする。今後は最寄りのバス停「大町通り」をご利用いただきたい。

- ・ 運行実績について、新型コロナウイルスの影響で従前の7割程度まで減少している。ミルハスの開館や各催事の実施により、今後の利用者増加を期待している。皆様においても、中心市街地にお越しの際は循環バスをご利用いただきたい。

#### 【意見・質問】

川反外町振興会的那波会長が以下のとおり発言した。

- ・ 中心市街地循環バスについて、ルート見直しが決定したとのことで今すぐの再考を望むわけではないが、ミルハス前に停車するのは確かに便利である。ただし、便利になりすぎることによって周辺への回遊性が低下する恐れもあるので、運行後の状況を分析する際は、その点も考慮していただき、必要に応じルート見直しを検討いただきたい。

#### (2) ①2022 千秋蓮まつりについて

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 千秋公園お堀の蓮を新たな観光コンテンツとして、秋田市における都市型観光の魅力向上と観光消費額の拡大に繋げるために、7月から8月の期間において以下の事業を実施する。

##### 【千秋蓮まつり事業】

- 千秋公園蓮の花ライトアップ
- グルメクーポン《新規》
- 千秋公園夜観光《新規》
- 千秋公園朝観光
- LOTUS FETIVAL2022《新規》
- 蓮の花フォトコンテスト2022

#### (2) ②アートなまち歩きについて

事務局が中心市街地に特化した情報誌「アートなまち歩き」を配布し、中心市街地内における文化・芸術関連の催事スケジュール、文化施設等周辺の飲食店・小売店について情報提供した。

#### (2) ③秋田駅前歩道占有にぎわい創出事業について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田駅周辺エリアの賑わい創出と、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている飲食店等の新たな販売機会を提供することを目的とし、千秋久保田町線西側の歩道スペースを活用し、「ストリート★レストラン」事業を実施する。
- ・ 出店対象者は秋田県キッチンカー協会に加盟する移動販売車とご当地パラソルアイスとする。
- ・ 5月9日まで事業を行ったが、道路舗装が軟らかく移動販売車のタイヤ痕等が残るなどしたため、秋田市と協議の結果、移動販売車の出店を取りやめた（ご当地パラソルアイスは引き続き出店中）。

【意見・質問】

広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ キッチンカーは賑わいづくりに重要な要素である。給排水や電源の整備などキッチンカーが出店しやすい環境を整備していただきたい。

【情報提供】

- (1) 東北経済産業局からの事業紹介
- (2) 東北地方整備局からの事業紹介

閉 会